

戴帽式を終えて

准看護学科第 60 期

新 田 有 加

戴帽の儀は、看護師に求められるものとは何か、看護師として大切にすべき事は何かを改めて考えることができ、看護師を目指す目標を明確にする機会となりました。

先輩方から受け継いだナイチンゲールの灯火の元、ナースキャップを頂いた時は、感動と共に気持ちが引き締まりました。60 期生の皆とナイチンゲール誓詞、誓いの言葉を斉唱しながら、ナイチンゲールの灯のように患者さんの心を照らすことのできる思いやりある看護師になることを決意しました。

新型コロナウイルスの影響で入学以降、様々な行事は中止となり、授業は自宅学習となりました。私達はコミュニケーションをとる機会は少なく、お互いを知る機会がないままに時は過ぎていきました。一人で学習する中、このまま看護師になれるのかと不安がよぎることもありました。それでも前を向くことができたのは、施設の方々の励ましや家族の支えがあり、日々を前向きに過ごすことができたからです。

授業が再開され、看護の知識を仲間と学びあい、交流を深める中、戴帽式に向け練習が始まりました。練習開始当初、声は小さく息を合わせることはできませんでした。戴帽式委員を中心に練習や話し合いを重ね、お互いを尊重することを学び、少しずつ私達の気持ちの変化を感じることができました。当日は、大きな声で息を合わせて気持ちを一つにすることができました。

60 期生は、仲間を助け合うことのできる元気で笑顔の絶えないクラスです。自分の思いを正直に伝え合うことができる良い関係を築けたのは、皆が同じ『准看護師になる』という目標を持ち、戴帽式に向け一致団結して取り組めたからだと思います。自分一人では決して解決できないことも仲間と助け合い、他人を思いやる気持ちを忘れないことでチームワークもよくなり、問題解決につながることを学びました。

戴帽式が終わると臨地実習が始まります。個性も年齢も様々な 60 期生の仲間と共に作り上げた誓いの言葉を胸に刻み、患者さんと真摯に向き合い、心に寄り添う気持ちを大切に実習に臨んでいきます。